

家屋の成聖祈禱

君や、祝讃せよ。
我等の神は恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に。
アミン。

常套の始め

我等の神や光栄は爾に帰す、光栄は爾に帰す。
天の王慰むる者や、眞実の神、在らざる所なき者、満たざる所なき者や、
の寶藏なる者、生命を賜うの主や、來たりて我等の中に居り、我等を諸の穢
より潔くせよ、至善者や我等の靈を救い給え。
聖なる神、聖なる勇毅聖なる常生の者や、我等を憐めよ。（三次）
光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

至聖三者や我等を憐めよ、主や我等の罪を潔くせよ、主宰や我等の愆を赦
せ、聖なる者や臨みて我等の病を癒し給え、悉く爾の名に因る。
主憐めよ。（三次）

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。
天に在す我等の父や、願わくは爾の名は聖とせられ、爾の国は來たり、爾の旨
は天に行わるが如く地にも行われん、我が日用の糧を今日我等に與え給え、
我等に債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給え、我等を誘に導か
ず、猶我等を凶悪より救い給え。

蓋國と權能と光栄は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に。
アミン。
主憐めよ（三次）。

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。
來たれ、我等の王神に叩拝せん。
來たれ、ハリストス我等の王神に叩拝俯伏せん。
來たれ、ハリストス我等の王と神の前に叩拝俯伏せん。

神や、爾の大なる憐に因りて我等を憐めよ、爾に祈る、聴き納れて憐めよ。

主憐めよ。(三次) (以下毎次同様)

又此の家に住まわんとする爾の諸僕婢「某」に、慈憐、生命、平安、壯健、救贖、眷顧、寛宥、及び諸罪の赦しを賜わんが為に祈る。

又此の都邑と此の家が、飢饉、疫病、地震、水害、火災、及び諸の災より防ぎ護らんが為に祈る。

神我が救世主、地の四極と遠く海に居る者との恃や、我等に聞き給え、主宰や、

重聯禱

爾の憐を以て我が敵を滅ぼし、凡そ我が靈を攻むる者を夷げ給え、我は爾の僕なればなり。

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神や光栄は爾に帰す。(三次)

しゆ
主よ、我が祈を聆き、爾の眞實に依りて我が願に耳を傾けよ、爾の義に依りて我に聴き給え。爾の僕と訟を為す母れ、蓋凡そ生命ある者は、一も爾の前に義とせられざらん。敵は我が靈を逐い、我が生命を地に蹂り、我を久しう死せし者の如く暗に居らしむ、我が靈は我の衷に悶え、我が心は我の衷に曠しきが如し。我古の日を想い、凡そ爾の行いしことを考え、爾が手の工作を計る。我が手を伸べて爾に向い、我が靈は渴ける地の如く爾を慕う。主よ、速に我に聴き給え、我が靈は衰えたり、爾の顔を我に隠す母れ、然らずば我は墓に入る者の如くならん。我に夙に爾の憐を聴かしめ給え、我爾を頼めばなり。主よ、我に行くべき途を示し給え、我が靈を爾に擧ぐればなり。主よ、我を我が敵より救い給え、我爾に趨り附く。我に爾の旨を行うを教え給え、爾は我の神なればなり。願わくは爾の善なる神は我を義の地に導かん。主よ、爾の名に依りて我を生かし給え、爾の義に依りて我が靈を苦難より引き出し給え、

第一百四十二聖詠

輔

詠 主や、今此處に立ちて祈る爾の僕（婢）「某」に、萬福にして平安なる度生、壯健と救贖、及び萬事に於ける善き進歩を與えて、彼（等）を幾歳（いくとせ）にも護り給え。壯幾歳も。（三次）

※（司祭は、聖十字架に接吻させる時、彼（等）に聖水を灌ぎ祝福する。）